

「もしも」に備える ～日々の確認で防災対策を～

昨今の増加する大雨や台風などの風水害、さらに地震は、どこでも発生する可能性のある自然災害です。日ごろの備えや防災情報の入手方法を確認するとともに、町と地域の皆さんが協力し、防災体制を整えることで、被害を軽減することができます。

9月1日の「防災の日」は、風水害や地震などの被害を最小限に食い止めるため、日常の備えの大切さを再確認する日です。家庭や地域、職場で災害への備えを確認しましょう。

住民の皆さんがとるべき行動は、内閣府の「避難情報に関するガイドライン」に沿って町や気象庁などから発表される防災情報を用いて、下表のとおり5段階の警戒レベルで明記しています。

特に大雨や台風については、事前にある程度の予測が可能なため、「サポートメール@防災くんねっぷ」の登録やテレビのデータ放送表示、各種防災アプリの取得などを行い、災害時の情報取得の方法を確認しておきましょう。

警戒レベル	住民がとるべき行動	町からの情報	目安となる気象庁などの情報
5	命の危険 だちに安全確保 すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所より安全な場所へ直ちに移動	緊急安全確保	レベル5 大雨特別警報 氾濫特別警報

ここまでに必ず避難！

4	危険な場所から全員避難 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況。この段階までに避難を完了しておく	避難指示	レベル4 大雨危険警報 氾濫危険警報
3	危険な場所から高齢者や障がいのある方などは避難 高齢者以外の人も必要に応じ、避難の準備をしたり、自主的に避難	高齢者等避難	レベル3 大雨警報 氾濫警報
2	自らの避難行動を確認 ハザードマップなどにより、自宅などの災害リスクと避難情報の把握手段を再確認		レベル2 大雨注意報 氾濫注意報
1	災害への心構えを高める		早期注意情報

9月1日「防災の日」

防災の大切さを再確認しましょう

非常持出品の準備・点検

いざというとき、ただちに避難するには、日ごろから非常持出品の準備・点検をしておくことが重要です。町では、災害に備えた備蓄を行っています。災害時に必要なものは一人一人異なります。次の一例を参考に自分用に合わせて非常持出品の準備・点検をお願いします。

○非常持出品の一例

飲料水・食品（最低3日分、できれば1週間分）、マスク、手指消毒液、体温計、除菌シート、救急用品、トイレトーパー、携帯トイレ、ビニール袋、上靴、タオル、着替え、洗面用具、カイロ、懐中電灯、携帯ラジオ、携帯電話、充電器、予備バッテリー、貴重品（現金、通帳、身分証明書）など

※小さいお子さんがいる方や持病のある方は、上記の非常持出品に加え、乳幼児用品や薬などの準備も必要です。



日々の備蓄はローリングストック法を活用

ローリングストック法とは、普段の食品などを多めに買い置きして、古いものから消費し、消費した分を買い足すことで常に一定量の食品などが備蓄されている状態を保つ方法です。これにより、備蓄には普段使用している食品などを活用することができ、無理なく備蓄ができます。

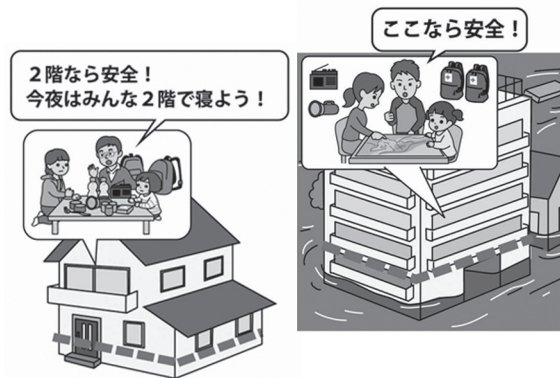
○ローリングストックする備蓄の一例

飲料水、菓子（クッキー、チョコ、ようかんなど）、あめ、パスタ（ソースとセット）、果物の缶詰、使い捨てカイロ、乾電池、ガスボンベ（カセットコンロとセット）、トイレトーパーなど



最善の安全確保行動

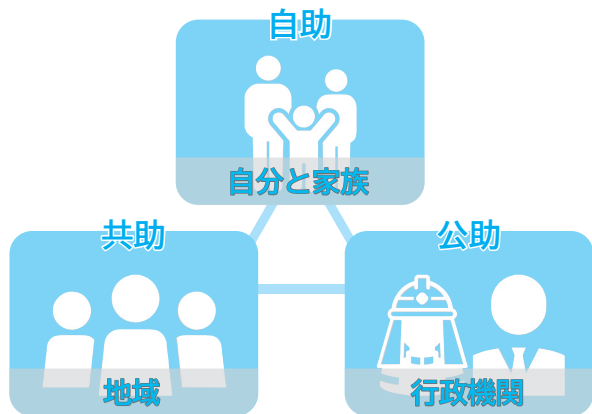
避難に当たっては、指定された避難所へ向かうことにこだわらず、川や崖から少しでも離れた近くの頑丈な建物の上層部に避難するなど、その時点における最善の安全確保行動をとることが重要です。



災害時の3つの助け

一人一人が「自分の命は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持ちましょう。

- ①自助 一人一人が自分の安全を守る
- ②共助 地域や身近にいる隣近所が助け合う
- ③公助 国や町、消防などの行政機関の取り組み



■問合せ 総務課防災危機管理係（☎ 47-2112 役場2階 窓口10番）